

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	A-133	17-034 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名（原題／訳）</b>		
Characteristics of Alcohol-Related Facial Fractures. 飲酒に関連した顔面骨折の特徴		
<b>執筆者</b>		
Lee KH, Qiu M.		
<b>掲載誌</b>		
J Oral Maxillofac Surg. 2017 Apr;75(4):786.e1-786.e7. doi: 10.1016/j.joms.2016.12.018.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、顔面骨折		28061357
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 酩酊は、特に、個別間の暴力や交通事故などによって顔面骨折が起きる重要な原因因子である。本研究では、10年以上の期間に、オーストラリアのビクトリア州で起きた飲酒に関連する顔面骨折の特徴を見つけることを目的とする。		
<b>方法：</b> 本研究は後ろ向き研究で、2004年から2014年の the Victorian Admitted Episodes Dataset を解析した。このデータは、州内で起きたすべての入院が報告され、患者の年齢群、性別、骨折箇所、ケガをした原因、外科的処置が詳細に報告されている。		
<b>結果：</b> 研究期間に4,293患者が飲酒に関連した顔面骨折で治療を受け、そのうち、27%は20代であった。男女比は7対1であった。研究期間中、増加傾向にあった。患者の中で、36%は複数箇所の顔面の骨が折れ、次いで、鼻と中顔面骨折はそれぞれ22%と6%であった。個別間の暴力が最も多い原因で38%、次いで、落下と移動に関連したケガでそれぞれ30%と18%であった。手術が必要なケースは患者のうち16%で、62%は1日から3日入院した。同時骨折は多く報告されており、20%の患者は、他の部位を骨折し、12%は頭蓋骨、4%は頸椎を骨折した。年齢群と性別、性別と骨折箇所、骨折箇所と手術の必要性の間には統計的に有意な関連が見られた(P<.05)。		
<b>結論：</b> 本研究では、若者では個別間の暴力が主な原因で飲酒に関連した顔面骨折が起きることを報告した。このようなケガは、顔面の骨折が複数箇所あり、短期間の入院を必要とする重度のトラウマを引き起こす事もある。一方、外科的な治療を必要としない患者も存在する。		